

目次

口絵	生名の自然	港の変遷	遺跡と遺物	古文書類	村内行事	歴代公営渡船
	災害写真	公共施設				
発行のごとば					生名村長	田尾紀

第一編 生名の自然と風土

第一章 生名島の自然と風土

1、自然	位置・面積	地形・土地利用	藻場・干潟	海岸線	気象・海象	水系	自然災害	5
2、人口	人口の現況	人口の推移	年齢別人口	産業別人口				27
3、地名								33
4、文化財	史跡	有形文化財	無形文化財					35

5、動物・植物

動物 植物

42

第二編 生名の歴史

第一章 先史時代の生名

1、旧石器時代

ソウのいたところ

47

瀬戸内海の誕生 ソウの世紀

47

島の狩人と石器

50

旧石器の分布 石器の種類

50

立石山の旧石器

52

立石山遺跡のナイフ形石器 石材など

52

2、縄文時代の生名

55

縄文遺跡の展開と人々の暮らし

55

豊かな山海の幸 縄文章創期 縄文早期 縄文前期から中期 縄文中期 縄文後期 縄文晩期
縄文土器の世界

61

草創期の土器・石器 早期の土器 前期の土器・石器 中期の土器 後期の土器 晩期の土器

61

生名島の縄文遺跡・遺物……………66

巖島遺跡 稲浦遺跡 深浦遺跡 その他の遺跡

3、巨石文化が栄えたところ……………68

稲作が始まったところ……………68

弥生時代の始まり 弥生文化への移行 弥生文化の特色

土器や石器……………70

弥生式土器 弥生前期 弥生中期 弥生後期 石器 玉類 金属器の使用

巨石信仰の隆盛……………74

巨石信仰 石神 磐座 磐境 賽ノ神 立石石神

立石山高地性山頂祭祀遺跡……………78

集落遺跡と祭祀遺跡 遺跡の概観 遺構の状況 出土遺物(弥生式土器)

その他の巨石信仰……………90

盃状穴石 ガール石

4、古墳時代の生名……………91

王たちの出現と古墳の盛衰……………91

島嶼部の古墳……………92

古墳の発達(古墳中期) 横穴式石室の盛行(古墳後期) 生名島の古墳 巖島古墳 製塩土器

しまなみの海人たち……………96

海人について 海人の生業 芸予海域の土器製塩 海人族の首長墓 海の祭祀

芸予海域の航路 発展の素地育む

第二章 古代・中世の生名……………107

1、荘園時代の生名……………109

絶好の製塩地帯 塩荘園の役割 海産物も上納 岩城を基盤の小泉氏 室町時代の海運活動

2、戦国時代の生名島……………121

能島村上の支配下 日本最大の海賊 朝鮮使節が見た海賊 海賊衆の解体

第三章 近世の生名……………129

1、松山藩と生名……………131

松山藩領の「越智嶋十七カ村」 草分け七軒株の伝承 伊予国越智郡生名村村上姓由緒之事

松山藩領内島方庄屋履歴書

2、奥平久兵衛の「乱」と庄屋玄祥……………138

流罪の家老と悲運の庄屋 久兵衛の最後 「御流人御居室」 「流人御居室」での生活

庄屋が津和地へ「転勤」

3、村方の支配……………149

治安維持や年貢の収納 「西海巡見誌」と「越智嶋旧記」

4、島民の生活

村の成り立ち

人家と人口 松山藩の水主役 臨時の呼び寄せ 村の人口の変遷 本百姓・水呑・無給

耕作地拡大へ干拓 入浜塩田の開発 大平爺さんの逸話 村上寛治の「塩田沿革記」

恵生塩田を特別財産に

飢饉に苦しむ

集落を支えた「村井戸」 用水確保を指導 借米についての嘆願 建築や旅行も届け出

発展し始めた商工業

酒造りや綿の栽培 営業(冥加金・運上)

急速に出稼ぎ増加

寺社への寄進も 備前瀬戸で海難事故 難民者の調査記録 伊能忠敬の生名測量

島役所の廃止と復活

第四章 近代の生名

1、幕末から明治維新期の生名

青年庄屋村上寛治の登場

村上橙園翁之碑 三原の松浜築港で功績

藩財政と生名村

藩が深浦塩田開発を援助 長州征討と生名村 藩命か？村内で「腰金づくり」

2、明治前期の生名

版籍奉還から廃藩置県へ

伊予八県から愛媛県へ 庄屋から戸長に

大区小区制時代の生名

「地理図誌稿」にみる生名 岩城と小区を形成 区務所位置に悩む

学校教育の開始

第十一大区二十小区時代 正福寺に寺子屋 生名小学校の誕生 学務委員制度の発足

生名小学校の「沿革誌」

地租改正

年貢から地租へ 生名村における地租改正

三新法と村政

村会規則の制定 戸長の公選制 賭博防止や交番所誘致 道路と溝渠の修繕 伝染病への対策

鐵下年期くわしんねんによる開墾 開墾地の引き消し願

明治十七年の台風災害

天気凶第一号の台風 全島に大被害

海運界への進出

生名船籍八百石 明治十七年の海運 明治二十九年の船舶(大船) 日本型帆船で占める

3、明治後期の村域……………	255
立憲国家の成立と地方自治……………	255
市制・町村制の公布と村議会「共有家屋」が村役場 村議会と予算審議	
生名村の基本財産蓄積……………	263
基本財産管理規則の制定 深浦塩田の一部買収	
村財政の特徴……………	269
際立つ塩田の経済効果 奨学資金制度の発足 最高資産は恵生塩田 身近な金融機関	
寄付金の募集 村民の手で道路や港湾保全	
日清戦争と生名……………	277
明治二十七年の村議会 召集家族の夫役問題 平和祝賀の電報 各戸に等級をつけ課税	
戸数割等級表	
保健衛生問題への取り組み……………	283
避病舎を建設 村医規定を制定 衛生組合を組織 等級選挙で村会議員選出	
生名小学校の歩み……………	290
校地・校舎の変遷 七百五十円で新校舎 煙火で開校を祝う 校舎を増築、校地拡張	
補習科・高等科を併設 就学低下を招く授業料 同級生が登校を勧誘 小学校建築費の寄付	
校舎火災と勅語・御真影問題 村長が「待罪書」を提出	
日露戦争前後の生名……………	311
行財政をめぐる動き……………	315
日露戦争による応召者 国庫債券の購入を要請	
校舎再建へ村議会の対応 基本財産蓄積条例の策定 伯方塩田購入計画 特別基本財産申込	
明治後期の村民の生業 製塩労働	
4、大正期の生名村……………	340
第一次大戦と造船業の発達……………	340
職業の変化 都市近郊型農村へ変化	
大正デモクラシーの潮流……………	344
米騒動の余波 大阪鉄工所因島工場の労働争議 シベリア出兵 大正期の歳入出予算	
大正期の予算の特色 人口減と財政支出の増加	
村民の生活……………	358
行灯から電灯へ 人力による農作業 口約束で小作契約 農場経営の試み	
スペイン風邪の流行 相互扶助の頼母子講	
普通選挙の実現と地方自治……………	367
民衆運動の開花と浜田国太郎 普通選挙の実現と地方自治	
5、昭和前期の生名村……………	370
政党政治の崩壊と地方自治……………	370
経済不況時代の村財政 小学校運動場を拡張 恵みの雨の土木工事 継続された夫役賦課	

救農大土木事業の推進 徴兵への備え 村道工事を継続推進 手直しされた「出役」制度
不況下の善意の寄付

自然災害と埋立工事

昭和九年の室戸台風 昭和十年の水害と復旧工事 相次ぐ埋め立て工事
浜田国太郎の銅像建立

激動の昭和十年代の歩み

日中戦争から太平洋戦争へ 寄付の別荘へ役場移転

戦時下の諸団体・学校の動向

生名村災害警防団の発足 女性火防隊を組織 国防婦人会の活動 小学校から国民学校へ
戦時下の企業の動向と生名村

日本水産の宿舍建設 生名寮を日立造船に譲渡 急成長した大阪鉄工所 工場誘致議案を否決

恵生、西浦地区に住宅建設 貯木場を設置 台風災害復旧工事 共同作業場を建設

終戦直前の国民学校 高射砲陣地と捕虜収容所 疎開児童で溢れた教室

浜田国太郎の銅像を供出 本土決戦へ国民義勇隊

終戦を迎えた生名村

新時代への模索 平和の礎石となった戦死者

6、太平洋戦争後の諸改革

民主政治の推進

食糧難やインフレに苦しむ 公選第一号は斎藤村長 村民の声を聞く 民主主義時代の到来

市町村長を直接選挙 村議会議員の定数減 激しい財政運営 青年団が護岸工事

フォークダンスの魅力 青年会誌「若人」の発行

農地改革

第一次・第二次農地改革 農地委員会の発足 愛媛県農地委員の選挙

昭和二十五年の生名村農地委員会 愛媛県下の農地改革

教育改革

六・三・三制のスタート 学務委員から教育委員へ 教育協議会の結成

生名村教育委員会の発足

消防組・消防団のあゆみ

第二次大戦前の消防組 女性「火防隊」を組織 団員たちの文化活動 村上僑夫組頭の辞令

太平洋戦争後の消防団 女性消防団が活躍 歴代生名村消防団長

7、揺れた越県合併問題…町村合併運動の先駆

因島市制の発足と生名 動き始めた合併問題 合併に関する二つの組織

「特別調査委」の名称変更 青年会が世論調査 因島市との合併協議進展

足並みそろわぬ上島地区 因島市との合併に向けて（昭和三十一年前半）

八割強が因島合併支持 村議会で賛否両論噴出 因島への合併を満場一致で議決

県、陳情書の受領拒む 因島が生名編入を議決 村長、「住民の総意」強調

新聞に見るその後の経過 魚場問題がネックに 県の説得工作が奏功 自治省が現地調査
 生名村、愛媛残留決る 広報に報告や声明文 市村が合併申請取り下げ
 8、生名の教育と文化 546

新しい教育制度 546

アメリカによる日本教育の管理 学校制度の改変 六・三・三・四制の実施 教育内容の変遷
 新制度下の生名小学校 552

板戸で仕切った校舎 生名小学校の現状と課題 582

新制度下の生名中学校 582

小学校を間借りして発足 生名中学校の現状と課題 611

生名保育所と幼児教育 611

就学前教育の視点に立つ 622

PTAと学校教育 622

児童生徒の健全化に努める PTA活動の現状 636

各種団体の組織と活動 636

旧公民館の建築（へき地集会所） 旧公民館時代の生名村（広報「いきな」から）
 新公民館の建築 新公民館時代の生名村（広報「いきな」から） 戦前の婦人組織 636

新しい婦人会 生活改善アンケート 結婚式の簡素化と葬儀の改善 新しい青年組織をめざす 636

生名文化協会 「生名村文化祭」と「花と音楽の会」 「近島交流芸能発表会」 636

生名島開発総合センター 住民スポーツと村内体育施設 生名村体育協会 村民体育祭 670

生名島一周駅伝競走大会 670

9、産業の発達 670

「地誌」に見る村の実態 畑面積と塩の生産急増 明治前期の生名村産業構造 670

大阪で砂舟の出稼ぎ 砂船経験者たちの懐旧談 東京へも進出した砂船 670

大阪市社会部の調査報告 六十歳以上が少ない 児童たちを預かった祖母 瀬戸田塩業組合 670

急速に進む技術革新 日立造船と生名村 新聞報道に見る造船不況 670

短歌に表現された造船不況 基本構想を策定 670

10、交通の歴史 702

生名村公営渡船 702

鉄工所通いの「足」 運賃を値上げ 継続された入札制度 因島に免許、経営は生名 702

市営から組合運営へ 村単独の公営渡船に 鋼製フェリーを導入 フェリー初代「いきな」 702

車両に大型回数券 浮き棧橋と両頭船 720

岩城渡し（船越渡し） 720

旗を合図に送迎 723

今治航路 723

待望の南棧橋完成 快速船で今治通学 729

弓削航路 729

「青丸」が活躍

生名島の港湾整備

埋立地に中学校 島をつないで港湾に 村の玄関港

11、神社・仏閣

神社・寺院

明治十四年に火災 住職が引退願

第三編 民俗

第一章 風俗・習慣・民間信仰

1、民話

「えんこ①」「えんこ② 方言」「吾平じいさんとえんこ①」「吾平じいさんとえんこ② 方言」

「お玉さんと竜神さん①」「お玉さんと竜神さん② 方言」「大蛇(おおへび)①」

「大蛇② 方言」「山姥(やまんば)①」「山姥② 方言」「ねこまた①」

「ねこまた② 方言」「狸(な)し」「うんば狸①」「うんば狸② 方言」「親子狸①」

「親子狸② 方言」「かっぱ狸①」「かっぱ狸② 方言」「いたずら狸①」

「いたずら狸② 方言」「婿婦(むすめ)の瀬戸①」「婿婦(むすめ)の瀬戸② 方言」「瓢箪(ひょうたん)流し①」

「瓢箪(ひょうたん)流し② 方言」「立石①」「立石② 方言」「蛙石(ガールイシ)①」「蛙石② 方言」

「鶏島(ケキョウロ)①」「鶏島② 方言」「大松峠」「奥平久兵衛」

2、年中行事

「正月の準備」「一月一日(お正月)」「一月二日」「一月三日」「一月七日(なぬかび)」

「一月十一日」「一月十四日」「一月十五日」「一月十六日」「旧正月」「旧一月三日」

「二月三日」「二月八日」「旧二月十五日」「三月三日」「三月二十一日」「旧三月二十一日」

「三月二十八日」「四月八日(卯月八日)」「四月の第二日曜日(古くは旧三月十八日)」

「五月五日」「六月一日」「六月六日」「六月最初の土、日曜日頃」「旧六月二十四日」

「七月一日」「旧六月三十日」「七月七日」「七月十七日(旧六月十七日)」「旧八月一日」

「八月五日」「八月十三日(十五日)」「八月十七日(旧七月十四日)」「八月十八日」

「旧八月十五日」「九月十五日」「九月二十三日」「十月」「十一月」「十一月十五日」

「十二月」「十二月二十一日」「十二月三十一日」

3、人の一生

「誕生」「婚姻」「厄年と年祝い」「お別れ」

4、民間信仰

「大日堂」「ひじりさん(聖さん)」「いぼ地蔵」「皇子神さん(みこがみさん)①」

「皇子神さん(みこがみさん)②」「御墓所(みはかどころ)」「地神(じしん)さん」

「五穀神社」「経塚」「賽之木神社」「金毘羅神社」「荒神社(こうじんじゃ)」

「とうびょう神社」「稻荷神社」「宇津神社」「鍬塚」「塩釜神社」「荒神さん」

5、子供の遊び……………〔きはらさん〕〔立石の観音さんと弁天さん〕〔島四国(お大師さん)〕〔稻荷神社〕……………830

6、民謡……………〔外遊び(男の子)〕〔外遊び(女の子)〕〔外遊び(男女)〕〔内遊び〕〔言葉遊び〕……………837

遊びの歌……………

〔集団あそび〕〔手遊びの唄〕〔まりつきの唄〕〔縄跳びの唄〕〔その他〕……………837

子守唄……………

亥の子唄……………

祭りうた……………

〔だんじり担ぎの囃子言葉〕……………

盆踊り「口説き」……………

祝い唄……………

仕事唄……………

その他の唄……………

第二章 生名の方言……………

瀬戸内海島嶼方言……………

村誌編纂室 こぼれ話……………

人物編……………

くらし編……………

教育編……………

アラカルト編……………

年表……………

あとがき……………

村誌編纂委員と執筆者……………